

IUNT 2024 年度事業計画

《活動理念・基本方針》

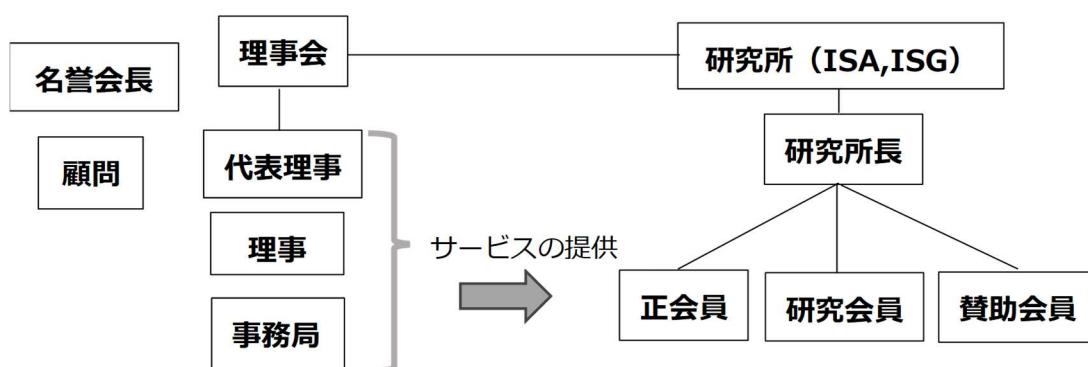
「サイエンスマインドで自然療法を学ぶ」

IUNT 憲章（基本的な方針や施策を謳った宣言書）

- 1, 自然療法を科学的思考を持って研究し、普及する。
- 2, 自然療法に携わるセラピストのアップスキル、リスキルを目指す。
- 3, EU 基準を採用し、EU そして世界と繋がる。
- 4, 統合医療を目指し、人々の健康維持の選択肢を広げる。
- 5, 生涯学習の促進で、人々のヘルスリテラシーを高める。

《活動事業案》

①組織の再編成にあたっての運営及び経営体制の見直し



－事務局の設置

－顧問の人選強化

－2つの研究所設置（国際アロマセラピー科学研究所 ISA と国際ジェモセラピー科学研究所 ISG）

IUNT 憲章に基づき、《四原則》法令順守、科学的思考、リスクの回避、説明責任に則った活動を推し進める。

②新資格の構築準備

－REFORMED 基準との擦り合わせ

REFORMED とのパートナーシップ協定に基づき、IUNT では日本におけるセラピストのキャリア構築を明確化するため、レベル毎に必要な知識やスキルを含むカリキュラムを提案。

欧州資格フレームワーク（EQF）に基づくアロマセラピー職業資格分類（8レベル）

EQFレベル	該当レベル	該当する他団体の既存資格	職業レベル(例)
1	基礎・初級	AEAJ アロマセラピーアドバイザー+α	ショップ店員
2	中級	AEAJ アロマセラピーインストラクター+α	講師、情報発信
3	トリートメントセラピスト	AEAJ アロマセラピスト+α	個人サロン
4	トリートメントエキスパート	IFA,IFPA セラピスト+α	スパセラピスト
5	高等技術教育ディプロマ	IUNT EXP アロマセラピスト	チーム医療一員
6	高等教育Ⅰ	学士	M.D.、薬剤師
7	高等教育Ⅱ	修士	
8	高等教育Ⅲ	博士	Ph.D.、研究者

ー現行資格からの移行

《現 ISA 資格と新資格のすり合わせ案》

REFORMED レベル	ISA 現行資格	IUNT 資格
1	－	IUNT アロマセルフケアアドバイザー
2	ISA ホームアロマセラピスト	IUNT アロマインストラクター
3	ISA アロマセラピスト	IUNT BS アロマセラピスト IUNT BS アロマトローグ
4	ISA メディカルアロマセラピスト ISA 講師	IUNT AD アロマセラピスト IUNT AD アロマトローグ
5	－	IUNT EXP アロマセラピスト IUNT EXP アロマトローグ

※BS ベーシック、AD アドバンスド、EXP エキスパート

※レベル6, 7, 8はIUNTでは該当なし

※ジェモセラピーでは、レベル1から設定→IUNT ジェモセルフケアアドバイザー

《IUNT アロマセラピスト実技レベルの設定案》

IUNT BS アロマセラピスト

個人サロンで、比較的健康的クライアントに対して、日々の不調に対応するトリートメント手技の習得

IUNT AD アロマセラピスト

スパや介護施設など、多様なクライアントにも対応できるトリートメント手技の習得

IUNT EXP アロマセラピスト

医療チームにも入れる知識と技術、多様なトリートメント手技の習得

改変における注意点：

現在の ISA 資格認定は今後行わない。

資格名をそのまま保有し、使用したい場合は許可されるが、協会としては IUNT 資格への移行を推奨する。

－カリキュラム運用予定

IUNT アロマセルフアドバイザー	2025 年 4 月～
IUNT アロマインストラクター	2025 年 10 月～
IUNT BS アロマセラピスト	2026 年 4 月～
IUNT AD アロマセラピスト	2026 年 10 月～
IUNT EXP アロマセラピスト	2027 年 4 月～

③普及 & 交流活動の促進

－新会員の募集：ホームページのリニューアル、Facebook での情報投稿など

－会員交流の場：植物園訪問、講演会開催など

－他団体との交流：REFORMED、アロマセラピー関係の他団体、フィットセラピー関係の団体、クレイセラピー団体など

－セラピスト資格後の出口を作る：IUNT 資格を取得することに意義を明確にし、資格習得後の道筋を作る必要がある。（自分のサロンワークに自信がつく、IUNT の資格なら外部からの信頼が得られる、など）そのため、レベル 4 もしくは 5 以上のセラピストたちが資格取得後にどのような職業の可能性があるかの経験を積むインターンシップ体制を構築し、企業や、診療所（鍼灸など）、産婦人科、研究所などでの体験学習ができるというパイプを作ることを目指す。同時に IUNT 資格の対外的な信頼度を高めることに繋がる。

④会報誌の発行

－デジタルマガジンのような形態で、イヤーブックを作成する。

以上